

日本記録が更新されるほどのうだるような暑さは去り、朝夕もめっきり涼しくなって、いよいよ秋本番です。

秋と言えば「食欲の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」など、さまざまに表現される「秋」がありますが、皆様は「何の秋」でしょうか？

あくせくと忙しい日々を送ることが多いご時世ですが、秋の実りをいただき、自分の体調に合わせて運動を楽しんだり、秋の夜長に普段読めなかった本を読んだり、秋の七草や紅葉を眺めれば、昔の人と同じように、上手に日々の生活を楽しむことができるようになるかも知れませんね。

これからはだんだんと冷えこんできますので 皆様風邪などひかない よう、健康にはくれぐれもお気をつけください。



リハビリテーション科の紹介

今年の春から理学療法士が1名増員となり、4人の理学療法士による新体制となりました。

ただいま、地域の皆様の転倒件数が少なくなるよう『転倒予防体操』発案中です。

また、『訪問リハビリテーション』を充実させ地域に貢献できるよう努めて参りますので、よろしくお願いします。



外木敦 井原寿江 三宅恭子 金井淳

大腸がんの治療

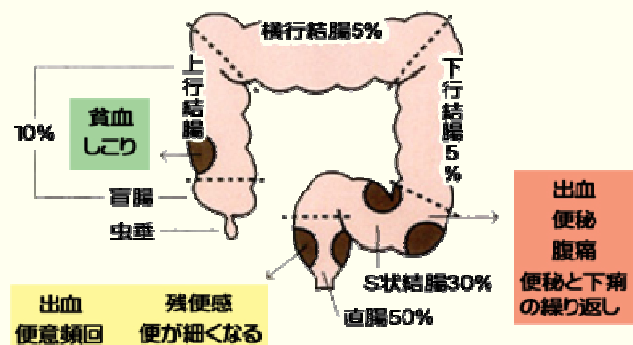
大腸がん患者は近年増加傾向にあり、国内でも多くの治療法が開発され治療成績は改善しています。またガイドラインが作成され標準的治療方針が示されています。当院でも、これらに準じて治療を行っています。当院での現状につきご紹介致します。

粘膜にとどまったがんは内視鏡で切除可能であり、当院内科では早くから行われています。進行がんでも比較的早い時期のものは開腹手術だけでなく、腹腔鏡補助下手術（へその下の1cm強の傷から挿入したカメラで観察しながら小さな手術器具で行う手術）も行っています。また進行がんによって腸閉塞になった場合、よほど腸が腫れていない限り人工肛門を作らず、切除および吻合（腸同士をつなぐ）を行っています。肝臓に転移している場合も可能な限り積極的に切除しています

進行がん術後の再発予防や再発患者が対象ですが、内服の抗がん剤だけでなく、鎖骨の下の太い静脈にカテーテルを植え込んで抗がん剤の持続投与を行う方法も行っています（外来にて治療可能）。分子標的薬と言われる新薬も使用しています。

このように、当院においては大腸がんの標準的治療が完結できます（他の消化器がんも同様）。遠方の病院まで行かなくても大丈夫ですよ。

大腸がんができる部位とその症状



外科 高島郁博

グレープフルーツと薬

高血圧の治療に使われる降圧剤のうち「カルシウム拮抗薬」という系統の薬はグレープフルーツおよびその加工品（特にジュース）と同時に摂取すると、血圧を下げすぎてしまい、頭痛、めまい、顔のほてりといった症状があらわれることがあります。

これは、グレープフルーツに含まれる成分が、肝臓などで薬を代謝する酵素を阻害し、薬剤の血中濃度が上昇することで、通常よりも薬の効き目や副作用が強くあらわれてしまうためと考えられています。

「スタチン系」と呼ばれる高脂血症の薬も同様に作用が強まり、副作用が現れたり・効きすぎたりしてしまうなど弊害が出る場合があります。

その他、抗血小板剤、免疫抑制剤、抗精神剤、抗HIV剤などの一部にも作用するものがあります。

グレープフルーツとこれらの薬の相互作用は、同時に摂取した場合だけでは限らず、グレープフルーツを摂ってから10時間後に薬を服用した際にも影響があらわれたとの報告がありますので、これらの薬を服用中にグレープフルーツは食べない・飲まないようにしたほうが良いかもしれません。

他に同じ柑橘類である、八朔・文旦（ザボン）・スウィーティー・夏ミカン・いよかん・金柑なども同様の作用があるので注意しましょう。

バレンシアオレンジ・レモン・カボス・温州みかん・マンダリンオレンジなどはこれら薬との相互作用は認められていない

といわれていますが、医師に相談してください。



薬剤科 國村和也

第16回医療公開講座開催



平成25年11月23日（土）午前9:30～安芸津生涯学習センター（旧安芸津公民館）において医療公開講座を開催いたします。今回の内容は、内視鏡検査と治療について、咬み傷・刺し傷について、当院外科の紹介等、盛りだくさん用意しております。皆様、ふるって参加いただきますようご案内いたします。



インフルエンザワクチン予約受付中

巷で騒がれていた新型インフルエンザの来襲はありませんでしたが、季節性のインフルエンザのシーズンがやってきます。当院でもワクチン接種体制を整え、シーズン到来に備えています。ワクチンは、血液中のインフルエンザ抗体を増やし、インフルエンザを予防しますが、それに加えて、うがい、手洗いが感染予防には重要です。感染成立には、「飛沫」とよばれるウイルスを含んだ水分がヒトの気道粘膜に付着し、そこから細胞内に入り込み、増殖するという数段階のステップが必要です。ワクチンの効果はウイルスの増殖を防ぐ段階で作用しますが、うがいにより粘膜に付着したウイルスを洗い流すことができます。また冬場には 感染性胃腸炎（ノロ、ロタなど）も流行します。胃腸炎はウイルスの経口感染のほかに接触感染の経路もありますので、手洗いを忘れずに。いつ流行が始まるかは分かりませんから、今から日常的にうがい、手洗いをするようにしておくといいですね。



編集後記

最近、転倒予防についてのテレビ放送や新聞記事を良く目にしますね。先日も転倒予防には自分の足をしっかり観察し、足指体操やフィットした靴を履くように理学療法士が科学的に解説し、毎日の筋トレ・ウォーキングなど高齢者にもわかりやすく丁寧に説明していました。ちなみに、転倒予防の情報に誰よりも敏感で、誰よりも真面目に取り組む隣人でさえ、転倒したことがあります。さらに予防に努めている姿には感動します。11月9日安芸津フェスティバル「火とグルメの祭典」にて転倒予防の健康体操を披露します。転倒予防のための、毎日の小さな積み重ねを実行し、安全な生活を送りましょう。



副院長 重松静香